

建材に含まれるアスベスト を最短1日で分析

不動産取引・投資の環境リスク調査・コンサルティングを手がけるアースアプレイザルは、米国フォーレンジック・アナリティカルと業務提携し、迅速・低コスト・高精度のアスベスト分析サービスを提供する「EFAラボラトリーズ」を開設した。

わが国では、昨年アスベストが大きな社会問題になってから、建材に含まれるアスベスト分析の需要が急増している。しかし、従来のX線回折装置（XRD）などを使った分析では、結果がわかるまで1~2か月を要するという問題点があった。また、試料を粉碎して分析するため、建材のどの部分にアスベスト繊維が含まれているのか、細かい把握が難しかった。

このような状況の中、今回開設された分析ラボでは、米国公定法（US EPA Method）による偏光顕微鏡（PLM）分析を主に、電子顕微鏡（TEM）分析なども用いて顧客の要望に応じた分析を行い、最短1日でのアスベスト分析が可能である。

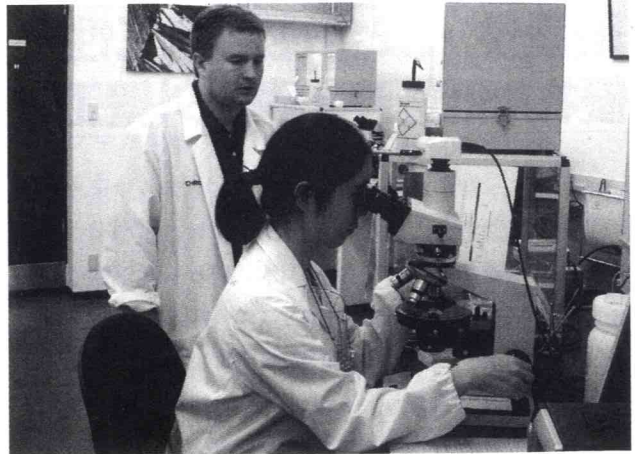
洗練されたアスベスト分析手法

偏光顕微鏡は、サンプル中の結晶性物質の形態、形状、光学的な性質（分散色、消光角、伸長の符号など）の分析が可能である。アスベストは、偏光顕微鏡下で明瞭に光学的な特徴を示すことから、アスベストの種類の同定や、どのくらい存在するかをすばやく判断できる。

また、偏光顕微鏡を用いた米国公定法分析では、アスベストが建材のどの層（表面、内部、深部）にあるのかまで特定できる。層別のアスベスト分析結果は、対策の必要性の判定、低コスト対策（封じ込め、囲い込み、部分除去など）の検討や、アスベスト管理に有益な情報として活用される。

今回開設された「EFAラボラトリーズ」では、米国フォーレンジック社の熟練したアナリストが常駐しており、国内アナリストと共同して、米国公定法に義務付けられている何十もの品質管理チェックを取り入れた、高度な分析サービスを提供することを可能にした。

米国では、1980年代にアスベストが社会問題化して以来、合理的なアスベスト分析の検討が進められてきた。



米国公定法でアスベストを分析

また、高額な訴訟問題にも十分耐え得る品質管理が徹底しており、1993年に改定された現在の米国公定法は、グローバルスタンダードであるISOの分析手法策定の中でも、最も洗練された手法として検討されている。なお、2006年3月に発行された日本アスベスト分析法（JIS 1481）に偏光顕微鏡による定性分析が定められており、これには、米国公定法の偏光顕微鏡によるポイントカウンティング法の一部の内容が含まれている。

さらに「EFAラボラトリーズ」では、米国公定法分析を自社で行うほか、国内の東海テクノ、日本総合科学などの大手分析会社と組んで、位相差顕微鏡法、X線回折法の日本の公定法分析サービスも、顧客の要望に合わせて提供する。

土壌汚染やアスベストなどの環境リスク管理の総合コンサルティングを展開しているアースアプレイザルでは、不動産管理会社やビルオーナーからのアスベスト含有懸念建材の分析依頼が急増している。2006年3月の宅地建物取引業法の改正で、アスベストにかかわる重要事項説明が義務付けられた。不動産の資産価値維持や向上のため、積極的にアスベスト管理をしようとする不動産管理会社やビルオーナーが増えてきたことによる。

アスベストの全面除去は、高コストになりがちで、テナントの移動などを含めビル経営に大きな影響を及ぼす。早くから合理的な外資系企業のアスベストマネジメントにかかわる調査・リスク評価・対策業務に取り組んできた同社では、そのノウハウを活用し、不動産管理会社やビルオーナーに、リニューアル時を活用した段階的な対策提案や、テナントとのリスクコミュニケーション支援サービスなどを実施している。

【株】アースアプレイザル TEL 03-5298-2151